

## 詐 僞

く進み行て見て歸らむ物をと仰ける處に、二人歸り參りたるが、果して御詞の如くなりけり、東照宮坂部は生得の勇を頼みにして解あり、久世は勵むをもて味ひ深しと感せさせ給ひけり、

詐僞ハ、イツハルト云ヒ、又アザムクト云フ、虛言ヲ弄シテ以テ巧ニ人ヲ欺クヲ謂フナリ、而シテ詐僞ノ、法律、兵事、外交等ニ關スル事ハ、各其部門ニ載セタレバ、宜シク參照スベシ、

〔新撰字鏡〕イ佞

寧定

反去(中)

〔同〕

聚許

交反、平誇語也、伊豆波留、又阿坐牟久、

〔同〕

謗謫

同帝各反、入欺也、責也、過也、譴

誦許

公穴、公橘

二反、入實也、

説

況遠許元居

而三反、忘也、

調力

知、運鬼

二反、欺謾之言、

調勅

蕩直

已止、又阿豆波利

譚

投南反、平譏也、大也、譴也、人

誣忘

也、伊豆波利

已止、

〔同〕

重點

佯々

利和佐波

類聚名義抄人

佞

音

諂

利久

又伊豆波

利久

又伊豆波